

**2012年から2020年に本院で前立腺癌の放射線治療受けられた
患者さん・ご家族の皆様へ
～診療情報を用いる後方視的研究へのご協力をお願い～**

大分県厚生連鶴見病院放射線治療科では、上記に該当される患者さんの診療情報等を利用して、後方視的検討を行います。研究の内容については当院の臨床研究倫理審査委員会にて許可されております。放射線治療の同意書取得時に治療において得られた臨床データの使用については言及しておりますが、ご自分の臨床情報等を研究目的に利用してほしくない場合、または研究について詳細にお知りになりたい場合は担当者にご連絡ください。

【研究課題名】

当院での前立腺癌の強度変調放射線治療例における直腸出血の検討

【研究責任者】

大分県厚生連鶴見病院 放射線治療科医長 大塚誠

【研究の対象となる方】

本研究は、本院で2012年2月から2020年1月までの間に、前立腺癌に対して強度変調放射線治療を施行した患者さんを対象としています。

【研究の概要】

がんの放射線治療は、がんの種類によって放射線の効きやすさが異なり、治療に必要な放射線の量も異なってきます。前立腺癌はその中でも放射線のやや効きにくいがんであり、しっかりと治すためには多くの放射線の量が必要となります。放射線治療ではがんだけに放射線をあてることは難しく、がんの周りの正常な臓器にも放射線が当たってしまいます。正常臓器に放射線がたくさんあたると、副反応がより起こりやすくなり、より重篤な副反応が出やすくなります。前立腺癌の場合、近くにある直腸に放射線があたりすぎるのが問題になり、直腸からの出血が重要な副反応として挙げられます。そこで、強度変調放射線治療という、がん放射線をしっかりかけながら、周りの正常な組織にはできるだけ放射線がかからないようにする特殊な放射線治療を導入することで、がんをしっかりと治療しながら、直腸出血などの副反応がなるべくおきないように治療することが可能になりました。

当院では前立腺癌への強度変調放射線治療を大分県でもさきがけて導入し、これまで数多くの治療を行ってきました。前立腺癌の放射線治療のこれまでの実績を評価し、今後の直腸出血を減らすため、今回、当院で施行した前立腺癌の強度変調放射線治療例について、直腸出血の頻度や直腸出血のリスクファクターについて検討を行うこととしました。

【研究の意義】

前立腺癌の強度変調放射線治療症例の直腸出血の頻度やリスクファクターを調べ、今後の治療における直腸出血の発症を減らすことを目的とします。

【研究（調査）の方法・期間】

方法は、対象となる患者さんの臨床情報（年齢、PSA 値などの検査データ、治療経過、直腸出血の有無、治療計画時のデータなど）を収集して検討します。

研究期間は、大分県厚生連鶴見病院における臨床研究倫理審査委員会の承認日から半年間です。

【個人情報に関する配慮】

連結可能匿名化を行い、対応表は鍵のかかる庫で保管します。得られた結果は、学会や医学雑誌に発表されることとなりますが、研究の結果を公表する際は個人が特定できないようプライバシーに配慮いたします。

【患者の利益と不利益】

この研究では治療介入を行いません。実地医療の結果を調べる後ろ向き観察研究であり、本研究に参加することによる患者さんの利益、不利益はともにありません。

研究の趣旨を御理解いただき、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。もし、本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合は以下にご連絡ください。

【お問い合わせ先】

〒874-8585 大分県別府市大字鶴見 4333 番地

大分県厚生連 鶴見病院 放射線治療科医長 大塚誠

電話番号（代表）：0977-23-7111